

■読みに困難のある子どもへの実践事例

マルチメディアDAISY図書を活用した 子どもへの効果について

栃木県鹿沼市立みなみ小学校
谷中 大泰

はじめに

本校はマルチメディアDAISY図書を活用して、今年で4年目になります。在籍190名の子どもたちの中には、外国とつながりのある子どもや、児童養護施設から通学する子どものほか、特別な支援を必要とする子どもが少なからずいます。

これらの子どもたちの中でも、とくに「読み」に困難を抱える子どもたちを対象として、iPadやパソコンを用いながら、積極的にマルチメディアDAISY図書を活用して指導に当たっています。

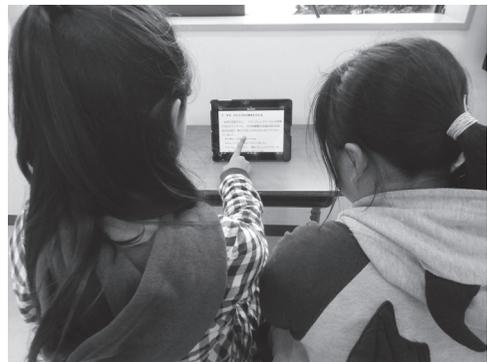
「読み」に困難のある子どもたちは、教科書やプリントから情報を得ることが難しく学習に支障をきたしたり、語彙の少なさからうまくコミュニケーションが取れなかったりという傾向が見られます。

それらの子どもたちを対象に、マルチメディアDAISY図書を活用することで、どのような効果があるのかを考えていきたいと思います。

活用方法

特別支援学級に在籍する子どもたちや日本語教室で指導を受ける子どもたちは、多くの場合「読み」に困難を抱えています。

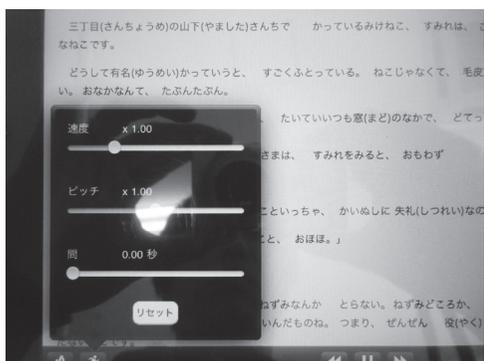
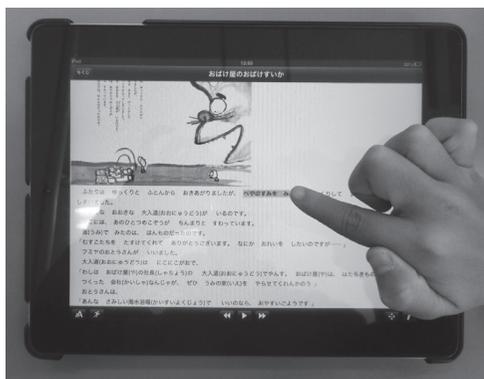
困難の状況は、学年や個々によってさまざまのため、一人ひとりの学習進度に合わせた目的、内容を選択する必要があります。昨年度効果のあった内容を取り入れながら指導の充実を図り、さらなる効果を期待しました。



(1) 読みの自動化を目的とした指導

本校の特別支援学級では、文字習得の初期段階にある子どもに対してマルチメディアDAISY図書を活用します。ハイライトされた文字を個々の読みの

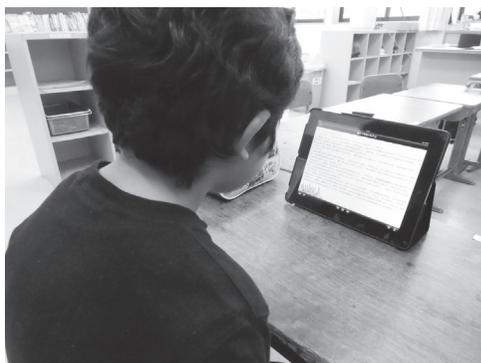
スピードに合わせて再生することで自動化し、読みを重ねることで単語のまとまりを文章単位で読めるようになります。



(2) 語彙の習得を目指とした指導

わいわい文庫には、日本の昔話シリーズ(『ももたろう』『てんぐのかくれみの』『わらしべ長者』)が収録されています。子どもたちが知っている読み物を通して、物の名前や言葉の表現の仕方、意味などを確認することができます。物語の内容を理解することはもちろんのこと日常生活の中での表現

方法が拡大され、感情や状態を表す言葉を使えています。



(3) 本を読むことの楽しさを味わう指導

読書の楽しさを味わう目的としてマルチメディアDAISY図書を活用します。多数あるデータの中から自分の興味をもったものを選択します。「読み」に困難さのある子どもたちでも物語を楽しく読んだり、聞くことができたりするうちに本に興味をもつことができます。『ともだちや』『へんしんオバケ』などは紙芝居風の内容もあるので、さし絵にひかれた様子で繰り返し聞いて楽しんでいます。



(4) 学び合いを目的とした指導

本校は、子ども同士の「学び合い」を学校課題として設定しています。少人数の子どもたちで同じ読み物を学び、ペアやグループでその読み物について話し合い、内容理解を深めていきます。マルチメディアDAISY図書『宇宙環境利用ガイドブック』の中にある無重力について、お互いが知っていることを伝えたり、話を聞いて初めて知ったことを伝えたりと効果的な話し合い活動を通して、学び合いができます。また、しっかりと内容を理解できるので積極的な発言も見られるようになりました。



考察

本校の実践では、授業や朝の読書にマルチメディアDAISY図書を活用しています。昨年からの実践を参考に多くの活用方法を取り入れることで、子どもたちに読書の楽しさや学習の喜び、学び合いの機会を与えられています。一人ひとりの課題に沿った読み物を準備できるという視点からも、マルチメディアDAISY図書は子どもたちの個に応じたきめ細やかな教育の一助となっています。

今後の期待

教科書に載っている読み物や子どもたちに人気のあるシリーズなどが出版されることを望みます。

また、図鑑など総合的な学習の時間の調べ学習に使える本が出版されることを望みます。